

トークンレス・ワンタイムパスワード

PassLogic

エンタープライズ版

バージョンアップ概要とリリースノート(エンタープライズ版 v3.1.0)

2017/12/15



1. リリースノート
2. 主な機能アップ
3. 主な機能改善・不具合修正

PassLogicの歩み

マトリックス専用から「多要素認証プラットフォーム」へ高機能化！

1997

「乱数表から抜き出してワンタイムパスワードを生成する」システム PassLogic 認証方式を発明。

2000-2006

パソロジック方式の技術ライセンスを日本企業へ提供。

2008

Webサービス組み込み用APIを強化。スマートデバイスにいち早く対応。



2010

セキュリティポリシーや運用機能、連携機能など基本機能を大幅に拡充。英語対応し海外展開が可能に。マルチテナント版リリース。

2012

マルチテナント版機能拡充しサービスプロバイダのデファクト採用の礎に！
(ソフトバンク/富士通/KDDI/NEC/IJ など)

70万ID突破

2015



100万ID突破

エンタープライズ版の機能拡充。主要連携製品とメーカー間の検証を完了。ソフトウェアトークン提供開始

2017



IPアドレス制限、Windowsログイン、PKIに対応のメジャーバージョンv3.0リリース。

ハードウェアトークン対応、API提供開始のv3.1リリース

110万ID突破

1997

2000



PassLogic認証方式が米国特許(US6141751)を取得。会社設立。

2007

PassLogicのパッケージ販売を開始。SSL-VPN連携機能を実装。

2009

Webアプリとの連携機能 (リバープロキシ&SSO) を実装。LDAPからのユーザーID同期を実装。

2011

クラウドアプリ連携 (SAML) に対応。スマートデバイス最適化。

2013

運用の自動化を実現する機能拡充。

80万ID突破

2014

小規模から大規模要件まで対応可能なエンタープライズ版をリリース。

90万ID突破



2016

利用者視点の機能強化を中心に、計5回のバージョンアップ、約70の機能追加・改善を実施。

2017



V2系のライフサイクルについて

2017年5月のPassLogic Ent v3系のリリースに伴い、v2系のライフサイクルが下記の通り確定しております。

対象バージョン	EoS	EoL
PassLogic エンタープライズ版 v 3 系	V4.0の提供開始から半年後	EoSから5年後
PassLogic エンタープライズ版 v 2 系	2017/11/18	2022/11/18
PassLogic エンタープライズ版 v 1 系	2015/10/15	2020/10/15

メジャーバージョンアップ版は年間保守サポートサービスのなかでソフトウェアプログラムをご提供します。

EoS : End of Sales (販売終了)
EoL : End of Life (サポート終了)

EoSは販売終了日の6か月以上前に公開情報として提供されます。
(サイト上での情報提供を予定しております。)

リリースノート

リリースノート

pickup 左記pickupラベルの項目は本資料内で概要をご紹介します。

【新規機能】

- ・認証方式にハードウェアトークン認証が加わりました **pickup**
- ・REST型のPassLogic APIが利用可能になりました（有償オプション） **pickup**

【機能改善・不具合修正】

- ・PassLogic for Windows Desktop が Windows7 でもご利用可能になりました **pickup**
- ・WebToken の乱数表取得に対する PKI 認証が可能になりました **pickup**
- ・useradmin権限でPKI 証明書発行が行えるようになりました
- ・認証サーバーに Favicon 画像が追加されました
- ・BASIC認証の認証情報をユーザーが設定できるようになりました
- ・PassLogicスタンダード版ユーザーデータ移行機能で、アットマーク “@” を含むユーザーを取り扱えるようになりました
- ・WebAPPで「.」を含んだ仮想パスが利用できるようになりました
- ・Radius 認証成功時に送信する Attribute で、文字列 “0” を送れるようになりました
- ・インストール時に、個別の SSH Keyを生成・設定できるようになりました
- ・PassLogic for Windows DesktopにPassClip ポリシーのユーザーでログオンすると、ダミーの乱数表を表示するようになりました
- ・冗長化構成リカバリ処理の不具合が修正されました
- ・シークレットパターン自動生成時、乱数表外の位置が指定される不具合を修正しました
- ・特定の状況で PKI 認証をスキップしてしまう不具合を修正しました

【仕様変更点】

- ・PostgreSQL の動作モード変更に伴い、PostgreSQL アーカイブログファイルの削除処理が廃止になりました。
- ・Radius 認証時、CHAP-Challenge は CHAP-Challenge 属性に格納されている場合のみ受け取り、Radius パケットの要求時認証符号領域(16オクテット) に含まれている場合は受け取らない仕様になりました
- ・管理画面で閲覧するログの保存期間を、設定ファイルで指定できるようになりました
- ・サポートファイル取得時に VERSION ファイルを取得するようになりました
- ・ログの最適化に伴い、APIレスポンスコードが一部変更になりました
 - ・LDAP ID 同期の同期時間の設定で、「指定した時間おきに実行」を選んだ際のセレクトに現れる初期値が 24 時間に変わりました。また、12 時間と 6 時間が選択肢に加わりました。



主な機能アップ

時刻同期型の **トークン** にも対応！

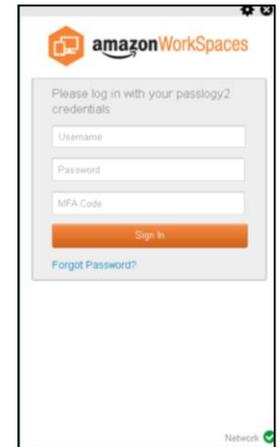
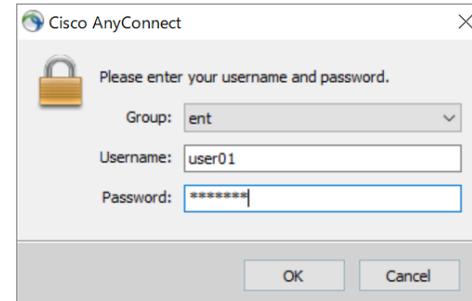
* PINとの組み合わせによる2要素認証も可能です。

ハードウェアタイプ



- ◆ アルゴリズム：OATH準拠
(飛天ジャパン社製トークンで動作確認済み)
- ◆ 保証年数：1年保証~5年保証
- ◆ 費用：OTPトークンのタイプ（キーホルダータイプ/カードタイプ）や、保証期間、購入数によって単価が変動します。詳細は別紙の価格表をご参照ください。

ハードウェアトークンは、
パスロジからご購入いただけます。



独自webサービスや独自アプリ画面にPassLogic認証を組み込み可能！

■ API組み込み事例

スマホアプリの事例

製品名：moconavi

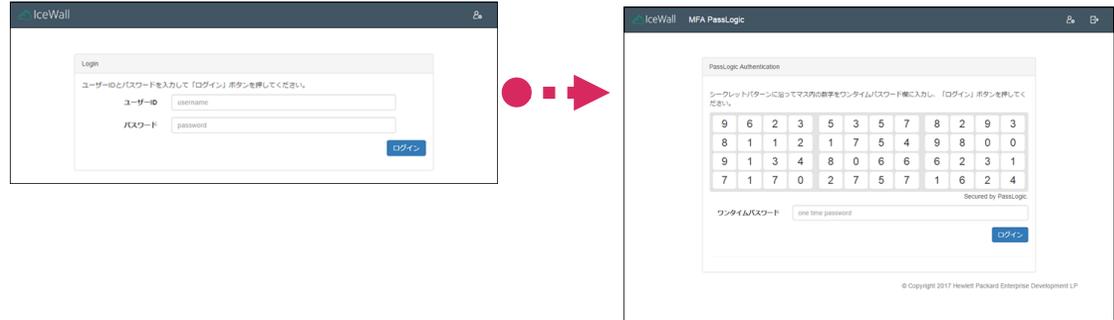
「端末にデータを残さない&認証強化」



Webアプリの事例

製品名：IceWall MFA

「大規模に対応可能なSSO&認証強化」



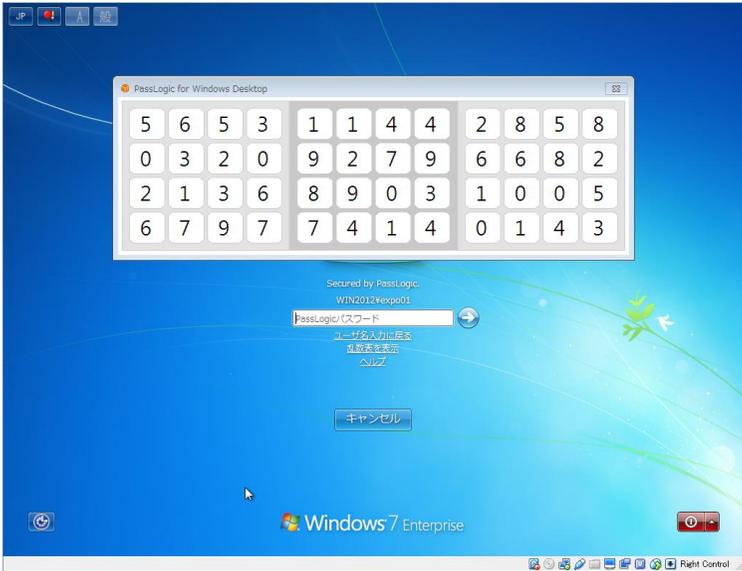
■ API仕様概要

項目	概要
API形式	REST
データフォーマット	XML、JSON
認証API	PassLogic (トークンレス) / TOTP (ハードウェアトークン) / PassClip (ソフトウェアトークン) に対応 ※PKIは使用できません。
管理API	ユーザー管理 (ユーザー作成、編集、削除、検索、ユーザー情報取得) / トークン管理 (トークン追加、削除、検索)
その他	拡張保守サポート (API仕様書の提供とそのサポート) のご購入が必要 ※費用については別途お問い合わせください。

主な機能改善・不具合修正

Windowsサインイン Windows7 対応

Windowsサインインを実現する、「PassLogic for Windows Desktop」が Windows7 でもご利用可能になりました。



たくさんの対応希望のお声を
いただき実現しました！
(すでに導入実績有り)

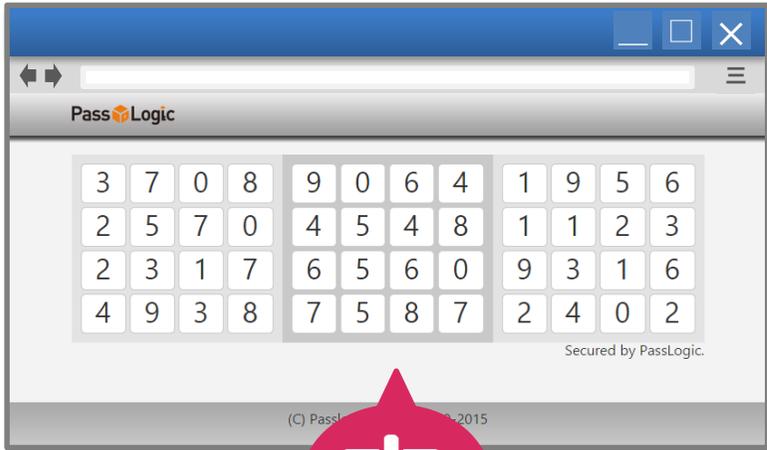
* Windows7の画面イメージ

正式名称	PassLogic for Windows Desktop
対応OS	Windows 10、Windows 8.1、Windows7 SP1以降 (.NET Framework 4.5.1以上)
	32bit / 64bit 両対応
オフライン認証	端末がPassLogicサーバーと接続できない状況でもログイン可能な仕組みです。
リモートデスクトップ	リモートデスクトップ (RDP) で接続する際にもPassLogic認証が動作します。
認証方式	PassLogic方式 (トークンレス) のみ利用可能です。
その他	ADドメインに参加している必要があります。

WebToken がPKI 認証に対応

WebTokenの乱数表へのアクセスをPKIで制御できるようになりました。

ブラウザで乱数表を取得 (WebTokenモード)

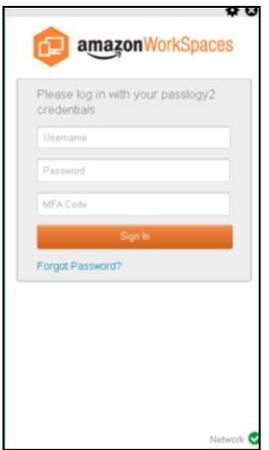
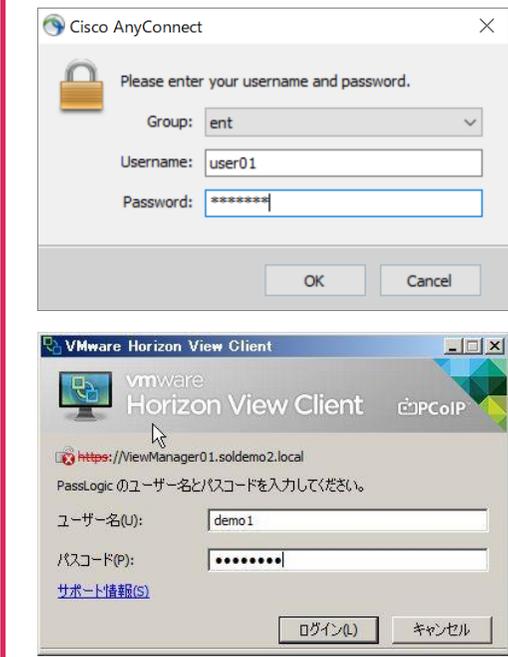


クライアント証明書認証を追加可能
(乱数表表示時にチェックします。
証明書が無い場合は乱数表を表示しません。)

正解パスワードをクライアントアプリに入力



クライアントアプリ



etc...